

秘境の北又散策



2023 年

(一社) 朝日町観光協会

もくじ

大蓮華山保勝会	．．．	1
自然保護巡視活動	．．．	1
保護を必要とする地域と動物・植物	．．．	2
越道林道	．．．	3
小川谷	．．．	3
北又谷	．．．	4
北又小屋	．．．	4
北又吊橋	．．．	4
北又ダム	．．．	4
北又園地広場	．．．	5
大蓮華の巨木	．．．	5
滝	．．．	7
森林浴	．．．	7
紅葉	．．．	8
朝日岳の歌	．．．	9
黒薙川流域略図	．．．	11
小川谷・北又小屋周辺図	．．．	12
写真で見る北又	．．．	13
植物図鑑	．．．	14

小川谷・北又谷のご案内

◆大蓮華山保勝会（おおれんげざんほしょうかい）

- ・昭和3年7月創立
（昭和6年国立公園法・昭和9年中部山岳国立公園制定）
- ・昭和53年11月23日 創立50周年記念式
- ・平成20年11月9日 創立80周年記念式
- ・会則第1条 大蓮華山の保護と紹介、登山者の便益を図る。
- ・山岳団体 登山者指導、山の祭典、登山道の補修・草刈、遭難救助
- ・山岳自然保護団体として活動
（山岳景観、特別天然記念物、高山植物、岩魚等）
- ・朝日岳山麓自然保護（山野草の保護・増殖・山へ戻す運動）
- ・山小屋の所有（朝日小屋・北又小屋）
- ・会長現在5代目 会員の推移（山崎村民全体～山関係者～現在57名）
- ・大蓮華山保勝会誌（年1回）、朝日岳パンフレット、朝日町低山MAP
- ・書籍「保勝会五十年の歩み」「70年のあゆみ」「大蓮華山・朝日岳」

◆自然保護巡視（パトロール）活動

- ・山野草保護 野生ランの乱獲・盗採・絶滅から保護 ←山野草ブーム
昭和59年から活動開始 4月中旬～8月上旬の間巡視
保護対象植物 ラン等 23種類 樹木5種類
- ・岩魚の保護 北又谷の岩魚乱獲・絶滅から保護 ←溪流岩魚釣りブーム
昭和50年から活動開始 6月下旬～10月下旬の間巡視
岩魚の稚魚の放流・追跡調査・岩魚募金等
- ・高山植物保護 大蓮華山一帯の高山植物約300種 ←山野草ブーム
昭和30年代から活動開始 7月下旬～10月中旬の間巡視
会員の資格：環境省自然公園指導員
富山森林管理署森林パトロール
県自然保護課自然公園指導員
県文化課文化財保護指導員等
巡視範囲：中部山岳国立公園、朝日県立自然公園
- ・雷鳥・カモシカ・高山蝶等の保護 中部山岳国立公園・大蓮華山一帯
の特別天然記念物・昆虫・小動物 ←密猟・採集
会員の資格：県自然保護課鳥獣保護指導員
県自然保護課高山蝶保護指導員
県文化課文化財保護指導員等

◆保護を必要とする地域と動物・植物

・朝日岳山麓地帯（県立朝日自然公園、共有林、私有林等）

サギソウ、クマガイソウ、エビネ、ナツエビネ、ウチョウラン、イワヒバ、カキラン、シュンラン、ミスミソウ、リンドウ、カタクリ、サイハイラン、ヒメシャガ、キンコウカ、アズマイチゲ、イチリンソウ、ミズバショウ、ザゼンソウ、シラネアオイ、ササユリ、ヤマユリ、ニホンタンポポ、サルメンエビネ、イワカガミ、ミズゴケ等のコケ類、シダ類、ヤマツツジ、ドウダンツツジ、シャクナゲ、オオムラサキ



サギソウ



クマガイソウ



エビネ



ウチョウラン

・朝日岳一帯（中部山岳国立公園）

雷鳥（朝日岳周辺 150～300 羽棲息中、平成元年 6 月雪倉岳～三国境
雷鳥調査 90 羽確認（県自然保護課））

カモシカ、イヌワシ、モリアオガエル

高山蝶…タカネヒカゲ、ベニヒカゲ、ミヤマモンキチョウ、クモマツマキチョウ、コヒオドシ

サンショウウオ…クロサンショウウオ、ハコネサンショウウオ

北又谷の岩魚…ニッコウイワナ

・朝日岳五湿原の保護

夕日ヶ原	ニッコウキスゲ、ハクサンコザクラ	富山湾の眺望
小桜ヶ原	ハクサンコザクラ、キンコウカ	木道の登山道
八兵衛平	チングルマ、アオノツガザクラ	照葉の池と池塘
あやめ平	ヒオウギアヤメ、クルマユリ	湖沼と植物群落
黒岩平	ミズバショウ、ミツガシワ	池塘と植物群落

・白馬連山高山植物地帯

天然記念物指定 大正 11 年 10 月 12 日

特別天然記念物指定 昭和 27 年 3 月 29 日

コマクサ、ウルップソウ、タカネシオガマ、オヤマノエンドウ、タイツリオウギなど立山にない植物がある。

◆越道林道

- ・江戸時代に加賀藩の下奥山廻り巡視路として小川温泉から越道峠～北又～猫又山～清水岳～白馬岳への道があり越道峠に「番所」があった。
- ・保勝会創立期（昭和3年）に、北又谷からイブリ山稜線に登山道を開削する。
- ・太平洋戦争時代により荒廃した登山道を昭和23年再び開拓する。
- ・戦後の木材需要期に北又谷のブナ林伐採のため、山崎森林組合が小川温泉元湯から昭和25年林道事業を行う。
- ・昭和32年7月富山県及び富山営林署の事業として越道峠まで林道が完成し、朝日小屋への物資輸送が軽減される。
- ・昭和35年北又小屋分岐点まで林道が延長竣工する。総延長10,526.4m
- ・昭和57年9月より朝日小川電源開発事業道路として整備される。
- ・昭和61年4月北又ダム完成に伴い北又谷周辺が野外スポーツ林に指定を受ける。
- ・昭和63年4月越道林道が町道湯ノ瀬北又線となる。

◆小川谷（朝日町を流れる二級河川「小川」） p.13 小川谷・北又小屋周辺図

小川谷は、昭和30年代まで山崎村、羽生、辻・南保村、蛭谷集落の生活の場であった。春の山菜取り、初夏からの炭焼き、薪（ばいた、ころ）出し作業があり、その作業地域は共有林であるが、それぞれ個人の場所がほぼ決まっていたことから屋号等が谷の名前として残った。

荒戸谷	あらとだん	源流は大地山。蛭谷地区の田畑が多い。
打谷	うちだん	源流は負釣山。羽入地区の田畑が多い。
相又谷	あいのまただん	源流は初雪山。 乗り越して吹沢谷への道がある。
下若狭谷	しもわかさだん	小川温泉元湯で小川本流に合流する。
上若狭谷	かみわかさだん	源流は山菜が多い。 乗り越して宇奈月弥太蔵谷に出る。
虎象谷	こぞうのたん	鉄砲水が怖いことが名前の由来。 急峻な谷で善五郎滝がある。
尾安谷	おやすたん	深い谷で西谷、東谷、シンヨウ谷があり 滝も多い。
横山谷	よこやまだん	越道峠を横山峠と呼んでいた古称の名残。
滝谷	たきのたん	小川源流地域、庄次郎谷、カヨ谷、ゼンマイ谷がある。

◆北又谷（黒部川水系黒薙川支川北又谷川） p.12 流域略図参照

- ・越道峠が、小川と黒部川の分水嶺（雨水が異なる方向に流れる境界の稜線のこと）。
- ・黒薙川は黒部川最大の支流で、上流で北又谷川と柳又谷川を合わせて黒薙川となる。北又谷は、朝日岳（2,418m）～犬ヶ岳（1,593m）までの水を集めている。
- ・岩魚、山菜の宝庫。近年、溪流釣りの人たちが多く入り込んでいる。
- ・戦国時代には、吹沢谷から銀が採掘され、明治・大正時代には雪倉岳・鉢ヶ岳に鉱山があったと伝えられている。藩政時代には、加賀藩の山廻り役人の巡視路であった。
- ・朝日岳へ登山がされるようになったのは大正末期から昭和初期であり、小屋を造り登山道がつけられたのは昭和3年の保勝会の仕事であった。
- ・越道峠から上流及び朝日岳、白馬岳地域は「黒部奥山国有林」と言い、明治時代から朝日町と宇奈月町との未境界地域であったが、朝日小川電源開発を行うにあたり、両町が富山県知事裁定案に同意し、昭和56年5月に新朝日町区域内の大字を「大蓮華」とした。

◆北又小屋

- 【一代目】昭和25年9月17日 新川建設・黒東土建、寄付により猟師小屋を丸太小屋に建て替える。（旧北又小屋跡川原の位置）
- 【二代目】昭和48年7月28日 老朽化のため二階建てに建て替え。
- 【三代目】昭和58年6月19日 北又電源開発事業に伴いプレハブ二階建ての仮設小屋がカリヤス谷に完成し北電より引き渡される。
- 【四代目】昭和62年7月25日 現在の北又小屋完成（床面積190.86㎡ 約57坪）休憩所・厨房・便所・和室6帖3室・4.5帖1室等

◆北又吊橋 昭和61年完成 総延長37m 幅0.9m 高さ12m

◆北又ダム（北陸電力管理の調整ダム）

着工 昭和57年11月 完成 昭和62年9月 運転開始 昭和61年10月
コンクリート重力式ダム 堰堤長107m 高さ35m 堤体積46千³m
流域面積40²km 湛水面積67ha 総貯水容量690千³m 有効貯水容量230千³m
特徴：排砂路を2条設置し流石土砂を積極的に排出し調整池容量を確保
朝日小川第一発電所：愛本堰堤での規定流量を確保した関西電力の余剰水を利用して発電 発電後は朝日小川ダムに放流
最大使用水量12t/毎秒 最大出力42,800kw 有効落差423m

導水路延長 5.850 km(内径 2.5m) 水圧鉄管長 1.256 km(内径 2.5~1.05m)
北又谷の流域変更：黒部川水系黒薙川支川北又谷川の水を貯水して朝日
小川第一発電所に送水し小川に流域変更している

北又ダム発電所：河川維持放流水 (0.97t/毎秒+a) を利用して発電
平成 26 年 11 月 14 日営業運転開始
発電所出力 130kw 発電電力量 90 万 kwh/年程度

◆北又園地広場

国有林「北又野外スポーツ林」区域指定 (昭和 61 年 4 月 1 日)
森林公園 6 千 m² 園地広場 9 千 m² 清流広場 6 千 m² キャンプ場 700 m²

◆大蓮華の巨木

越道峠から北又谷やイブリ坂、ブナ平には、トチノキ、ミズナラ、ブ
ナノキ等の巨木・巨樹林がある。推定樹齢 300~500 年以上のこれらの
巨樹の強い生命力には驚くばかりである。道路工事の時も、その土地を
利用する時も伐採されることなく、山の守り神として大切に保存されて
来ている。

昭和 63 年に当時の環境庁自然保護局から巨樹・巨木調査の要綱が発
表され、富山県で平成 2 年に調査が行われ、朝日県立自然公園内では 16
本の巨樹が報告されている。※令和 2 年 9 月の調査結果は赤文字で記載。

※巨木の定義：地上から 130cm の高さで幹周が 300cm 以上の樹木。

株立のものについては、主たる幹周が 200cm 以上のもの。

※推定樹齢：利賀のトチノキ 幹回り 11m 樹齢 990 年を参考に保勝会が
「幹回り○cm×0.9÷推定樹齢○年」の計算式を考え算定。

430cm

380 年

① 旧北又小屋のトチノキ (幹回り 413cm 推定樹齢 370 年)

登山者の休憩所として木陰をなし、長く親しまれてきた。
一時には北又小屋番人がしめ縄をしたこともある。人の背
丈ぐらいのところに看板等を取り付けたりして木肌が少し
傷んでいる。電源開発の際、工事の邪魔になるとのことで
伐採されようとしたが、自然保護の立場からこの木を含め
て 4 本残した。北又のトチノキと言えはこの巨木のこと。

310cm

270 年



② 後ろのトチノキ (幹回り 265cm 推定樹齢 230 年)

①の後ろにあり、斜面に根付いたからか背丈あたりで曲がって伸びて
いる。この 2 本は寄り添うように樹勢を広げている。

440cm

390年

③ 案内板のトチノキ (幹回り 394cm 推定樹齢 350年)

川原の大地の淵にあった大木で北又小屋の擬木テーブルが樹下にあった。少々の雨でも濡れることはなかった。

430cm

380年

④ 小屋横のトチノキ (幹回り 375cm 推定樹齢 330年)

小屋のあった当時は目立たなかったが、小屋が現在の地に移転したことにより川原に向かって大きく葉を広げている。斜面にやや根曲がり状態に樹勢を伸ばし4本の中では最も勢いが強い。根元に空洞があり、うさぎ等の穴蔵によさそうである。地上 130cm にあるコブの位置で測定。

⑤ 石抱えのミズナラ

(幹回り 481cm 推定樹齢 430年 樹高 20m 枝張 15m)

旧北又小屋へ降りていく道の北又谷側の斜面にある。大きな岩に乗りかかるように育ち、一抱え以上もある太い根を急な斜面の上下に伸ばし、ブナ林の薄暗い中から空に向かって樹勢を伸ばしている。

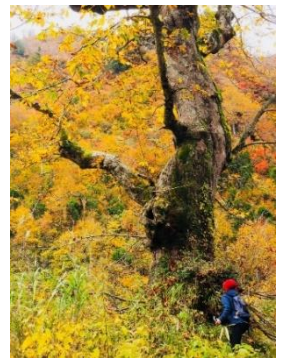
⑥ 逆様谷のトチノキ (幹回り 472cm 推定樹齢 420年)

この巨木は、三段滝へ向かう入口の橋から逆様谷を川沿いに旧北又小屋の方へ下ると営林署の地滑り防止工事がありその近くにある。平坦地に根をしっかりとおろし堂々とそびえている。この木の周辺はややヤブ状である。気になるのは、電源開発の復元植栽にクローバーが使われ、一帯がこれまでなかった植物が異常発生していることである。

⑦ 逆様谷川原のトチノキ

(幹回り 403cm 推定樹齢 360年 枝張り 25m 樹高 30m)

越道峠から下っていくと道の右側に最初に目につく巨木である。樹下 10m のところで2枝に分かれ、川原側に大きく枝を伸ばしているのが特徴である。紅葉期の黄葉は大きいだけに見事である。



⑧ 八斗坂のトチノキ (幹回り 581cm 推定樹齢 520年)

町道北又線の八斗坂を過ぎたカーブ地点にある巨樹。川原と道路面との斜面に根を張り、川原側へ太い下向きの枝を伸ばして、中心幹は川原側へ大きく弓なりになっている。台風の影響により、現在は中心幹が折れてしまっている。



・山の落葉広葉樹が薪や炭として利用される中、トチノキは薪炭材には不向きで実が食糧となることから、たくさん実が生る巨木を中心に残されていったと考えられる。

・巨樹・巨木調査は、「一般の人にも容易に散策できる場所にある樹木」に限定されこれら8本が報告されたが、この他登山道から外れた場所に、江戸時代に加賀藩の下奥山廻りの記録に書かれている杉谷の「幻の大桂」（幹回り14m 推定樹齢1,260年）や、恵振山への登山道一合目の人面木の「北又の巨人」と呼ばれるトチノキ（幹回り8m 推定樹齢720年）がそびえている。（p.14 参照）

◆滝（平成3年4月「とやまの滝37選」三段滝・魚止滝選定）

- ・不老の滝・・・小川温泉元湯の源泉近く
- ・五段滝・・・正式な名前はなく保勝会の通称
- ・北又の三段滝・・・幅1m 落差10m 逆様谷川にある（p.14）
- ・魚止滝・・・幅2m 落差10m 北又谷川にある

※平成7年7月集中豪雨で川床が大量の土砂で埋まり落差1/4に。



◆森林浴

森の中に入ると、独特のふくいくたる香りが漂ってくる。これは人の健康にもよいと言われている「フィトンチッド」という特殊な揮発性物質が発散されているからである。旧ソビエト連邦のB.P. トーキン博士が発見し、Phyton（植物）がCide（殺す）と名付けた。高等植物が傷つくと、傷口を菌や細菌から守るために、周囲の生物を殺す物質（フィトンチッド）を出すことに由来している。

動くことの出来ない植物は、トゲや毒をもって外敵から身を守るものがあるが、最大の敵の微生物に対しては、この特殊な物質を空気中や土中に発散して自らを守っている。この物質が、人間に有害なカビや病原菌にも優れた殺菌能力を発揮し、中枢神経や自律神経にも働きかけ、精神の不安、いらだちなどのストレスの解消、心身症の治療に有効だということが解明されている。

・フィトンチッドの発散量の多い時期

温度・湿度の高い時が発散量が多い。一日のうち、朝日の射し始める頃と、正午頃が発散量のピークとなる。時期的には、初夏から梅雨明けの頃、次に紅葉の時期が多いとされている。また、同じ木なら太陽の当たっている側が木陰側より多い。

・樹木によって異なる殺菌力

① 大きな殺菌力の樹木

ヒマラヤスギ、イチョウ、クヌギ

② 中程度の殺菌力の樹木

コナラ、ヤブツバキ、スダジイ、タブノキ、イロハモミジ、サカキ、サンゴジュ、マテバシイ

③ 小程度の殺菌力の樹木

クスノキ、アカガシ、スギ、ユズリハ、ヒサカキ、トベラ

◆紅葉

春には桜前線があるように、秋にはもみじ前線（紅葉前線）が山から平野部へ、北から南へと進む。朝日岳の高山植物が「草もみじ」になってから、一日に50～100mの速さでもみじ前線は標高を下げて行く。

北又谷は、例年10月末に紅葉の見頃を迎える。

紅葉の綺麗さは、日中の温度と夜間温度差の大きいほど鮮やかになると言われている。平野部の紅葉が山のそれに比べて鮮明でなく、同じ木々の葉であっても褐色に近いのは、この温度差が少ないからであろう。

○紅葉（真赤、朱赤など）

ナナカマド、ミヤマガマズミ、ヤマウルシ、ハウチワカエデ、ツタウルシ

○黄葉（真黄、淡黄、褐色など）

ダケカンバ、ミネカエデ、マルバマンサク、ブナ、ミズナラ、コナラ、タムシバ、クロモジ、コシアブラ、タニウツギ、サワグルミ、イタヤカエデ

【参考】秋の七草（富山の植物より）

歴史的七草	新秋の七草	越中秋の七草
萩（ハギ）	秋桜（コスモス）	竜胆（リンドウ）
尾花（オバナ・ススキ）	彼岸花（ヒガンバナ）	釣舟草（ツリフネソウ）
葛（クズ）	菊（キク）	彼岸花（ヒガンバナ）
撫子（ナデシコ）	秋海棠（シュウカイドウ）	溝蕎麦（ミゾソバ）
女郎花（オミナエシ）	犬蓼（イヌタデ）	犬蓼（イヌタデ）
藤袴（フジバカマ）	葉鶏頭（ハゲイトウ）	野菊（ノギク）
朝貌（アサガオ・キキョウ）	白粉花（オシロイバナ）	秋麒麟草（アキノキリンソウ）

◆朝日岳の歌

おれんげさんか
『大蓮華讃歌』 作詞：間部 善治 作曲：土田 明人 編曲：泉 よしはる

♩ = 92 明るく 弾む

(A) (B)

(1) こえどうちぎればゆのせもはるか おがわもとゆは
(3) ガスがながれるはいまつくぐり はしるらい鳥の

もう見えぬ わたるつりばし キヌガサがわの
おやニブル アサヒまだかと 井あがるみねに

は - や せ い わ な の - かげみ - せて
の - ころ 雷 かいが - めにこ - みる

(C) (D)

- ① ^{こえどう}越道過ぎれば湯の瀬^ゆもはるか ^{おがわもとゆ}小川元湯はもう見えぬ
渡る吊橋北又川の ^{はやせいわな}早瀬岩魚の影みせて
- ② ブナの林に木洩れ日揺れて ^{うぐいすほけきよ}鶯法華経と谷渡る
うねる胸突き登ればエブリ ^{かげ}蔭にひっそり ^{みずばしょう}水芭蕉
- ③ ガスが流れる ^{はいまつ}這松くぐり 走る雷鳥の親子連れ
^{あさひ}朝日岳まだかと見上げる峰に ^{せつけい}残る雪溪が目に沁みる
- ④ 右に ^{しろうま}白馬左に ^{れんげ}蓮華 ^{つるぎ}剣・立山・雲の ^{かげ}蔭
リンドウ キヌガサ ハクサンイチゲ ^{あさひだら}朝日平は花盛り
- ⑤ たむ ^{くもま}雲間に夕陽が落ちて 小屋のランプに灯がともる
^{いろり}囲炉裏トトロ炭火が燃えて 山の男 ^{はず}の弾む唄
- ⑥ 星を仰いで ^{あさつゆふ}朝露踏んで ^{らいこうむか}ご来光迎える岩の上
待てば ^{しんぴ}神秘の扉を開けて ^{あさひだけ}朝日岳から夜が明ける

ゆうひ はらぼじょう
『夕日が原慕情』 作詞：間部 善治 作曲：土田 明人 編曲：泉 よしはる

(A) ♩ = 72 抒情的

1. キ タ マ タ の な る せ と お く の ほ - リ - き
 6. ヤ マ ニ ヤ は ち ゑ に か ぎ ろ い は い - ま - つ

マ エ ブ リ も ぐ れ ば く す - ち の は
 に け ゐ た ね - ば き あ さ - ぐ だ け は お か

と - く り て ら - い ち ち の み え フ か く - 礼
 ね - に は え て ら - ん かい に ひ は お ち て - 中

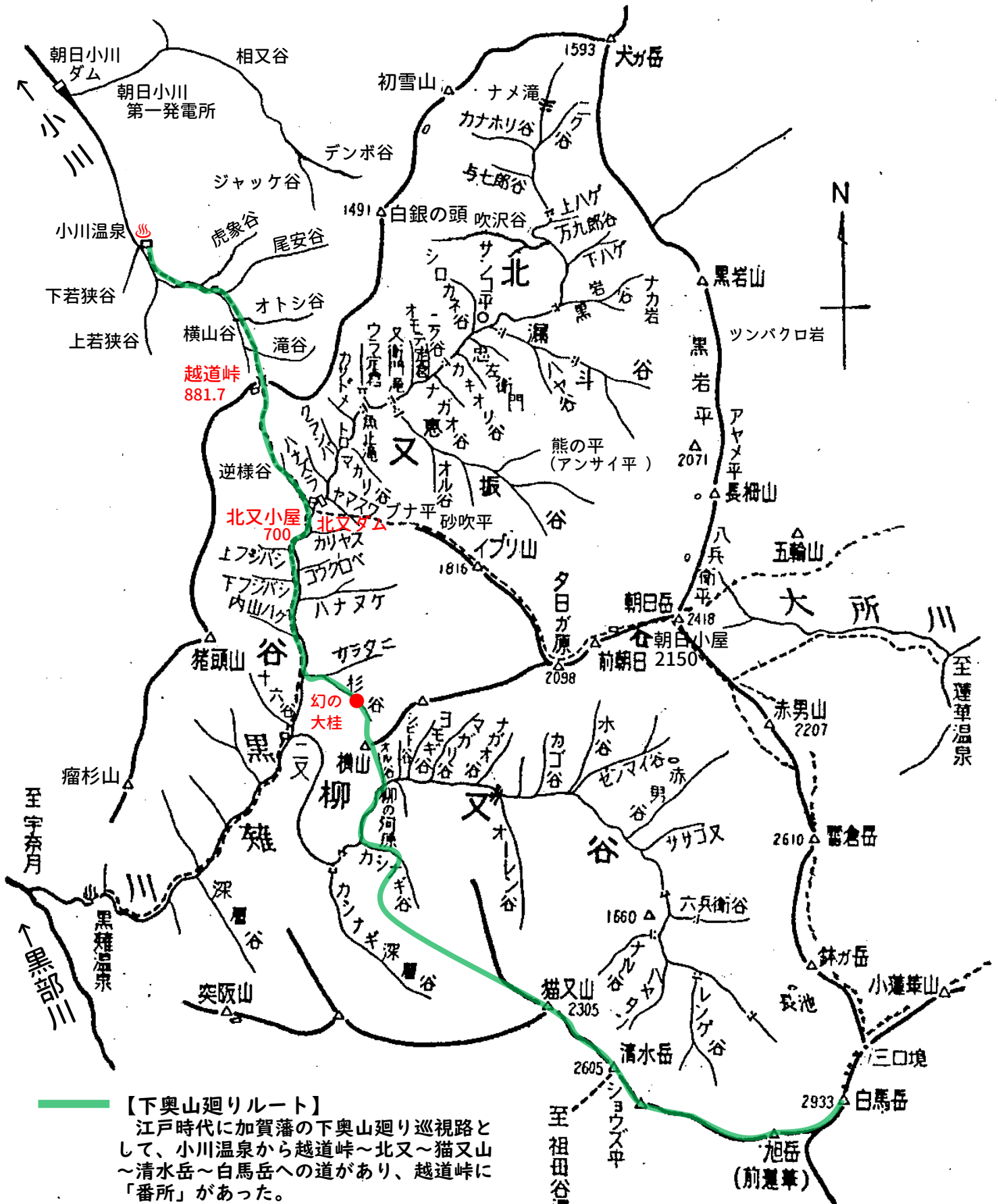
つ - ち べ A mp べ B べ DE D.S.

DE (D) べ A mp べ B べ B7 べ

- ① 北又の鳴る瀬を遠く登り来て 恵振過ぐれば黒百合の花を潜りて
雷鳥の見えつかくれつ
- ② 雪溪の冷たき風はたちまちに 狭霧となりて乳色に拡がり行けば
雪倉も白馬も見えず
- ③ ほのぼのと揺れる心はたまゆらの 夢と思えど峠路に逢いし乙女の
微笑は今も忘れじ
- ④ 暮れなずむ夕日が原の鮮緑の 褥の中に深々と身を埋むれば
震え咲く駒草哀し
- ⑤ 侘びしさについ耐えかねてわれ知らず 声を限りに山を呼べば 咎も
空し 声遠く鳴るは風のみ
- ⑥ 山小舎はすでにかぎろい這松に 煙たなびき朝日岳は 茜に映えて
雲海に陽は落ちて行く

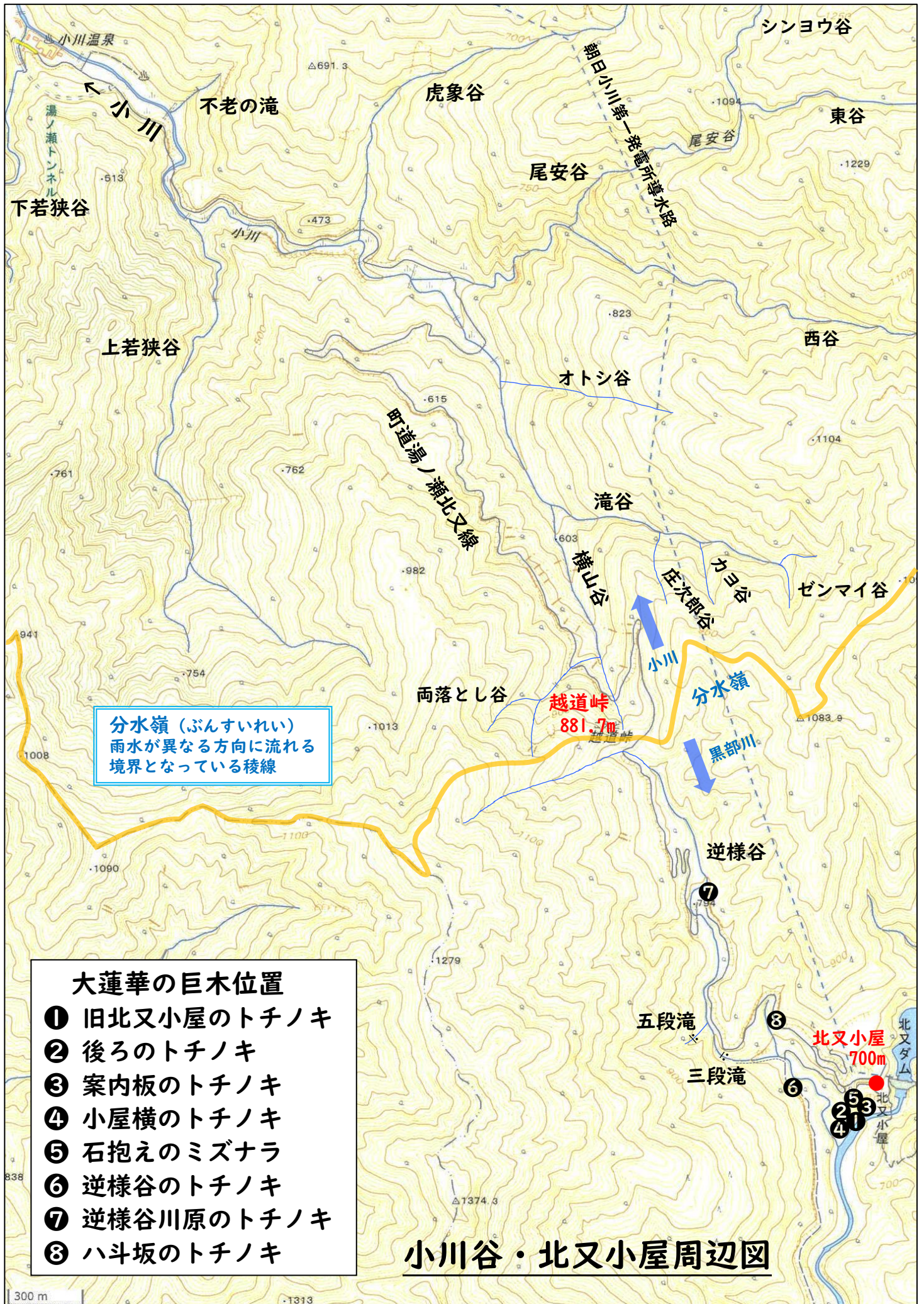
(大蓮華山保勝会制定)

黒薙川流域略図



【下奥山廻りルート】

江戸時代に加賀藩の下奥山廻り巡視路として、小川温泉から越道峠～北又～猫又山～清水岳～白馬岳への道があり、越道峠に「番所」があった。
 この下奥山廻りの記録に、「杉谷に巨大な桂の木があり、その木の下で休憩した」という記述が残っている。



分水嶺 (ぶんすいれい)
雨水が異なる方向に流れる
境界となっている稜線

越道峠
881.7m

北又小屋
700m

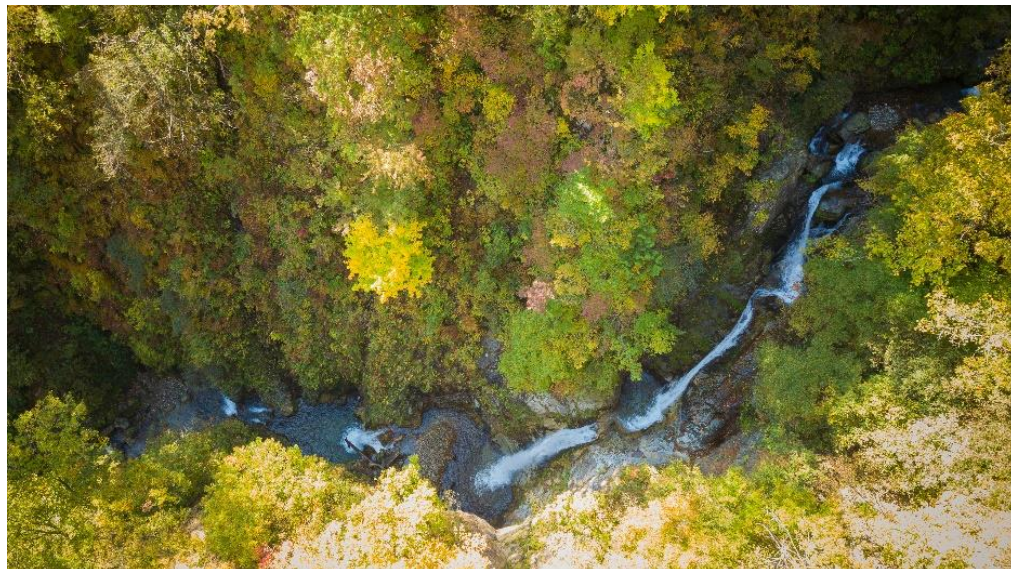
- 大蓮華の巨木位置**
- ① 旧北又小屋のトチノキ
 - ② 後ろのトチノキ
 - ③ 案内板のトチノキ
 - ④ 小屋横のトチノキ
 - ⑤ 石抱えのミズナラ
 - ⑥ 逆様谷のトチノキ
 - ⑦ 逆様谷川原のトチノキ
 - ⑧ ハ斗坂のトチノキ

小川谷・北又小屋周辺図

◆写真で見る北又

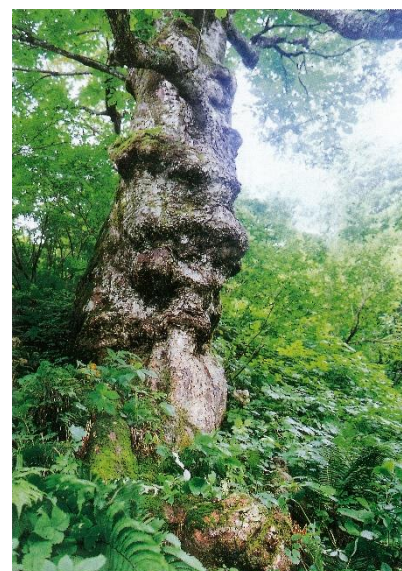
・北又の三段滝

逆様谷川の幅 1m 落差 10m の三段滝。滝つぼから見上げると三段だが、ドローンで空撮調査 (2020.10.26) したところ、七段の滝であることが確認された。



・杉谷の幻の大桂 (幹回り 14m 推定樹齢 1,260 年) 【写真左】

江戸時代に加賀藩の下奥山廻りの記録に書かれている巨大な桂の木。ハードなコースで、健脚な人でも北又小屋から 2 時間半ほどかかる。



・北又の巨人 (幹周り 8m 推定樹齢 710 年) 【写真右】

恵振山への登山道一合目にあって人面木でもあり、北又の巨人といわれるトチノキ。



イワナシ

開花 3~5月

背丈が10~15cmの常緑低木。ピンク色の釣鐘状の花が雪解け後から咲く。果実が梨の味に似ている。



キブシ

開花 3~4月

かんざしのような黄色い花。お歯黒の染料となるヌルデの虫こぶの五倍子(フシ)の代用になったことから。



アズマシロカネソウ

開花 4月

東白銀草。春に黄緑色で外側が紫の花が咲く。2個の果が魚の尾のよう。



オオバクロモジ

開花 4~5月

英語でspicebush (スパイスブッシュ) 香りがよく、爪楊枝、お茶、精油などになる。



コシノコバイモ

開花 4~5月

ひっそりうつむいた小さな花を咲かせ、奥ゆかしさやはかなさを感じる。



ヒメヤシャブシ

開花 4~5月

根に根粒菌を持ち痩せ地でもよく生育するので、昔から砂防・緑化樹として使われていた。



ギンリョウソウ

開花 4~6月

姿を竜に見立て銀竜草。葉緑素はなく栄養を共生菌から吸収。ゴキブリが実を食べ糞で種を運ぶ。



ショウジョウバカマ

開花 4~6月

猩猩は中国の想像上の動物で、猿のような顔をもち毛は紅色。花を猩猩、葉を袴に見立てた。



トクワカソウ

開花 4~6月

イワウチワの仲間で標高500mあたりの山地に自生しているものをトクワカソウと呼ぶ。



ミツバノバイカオウレン

開花 4~6月

白い花に見える部分は萼が変化したもの。



イカリソウ

開花 5月

花弁から長い距(きょ)が突き出し、花の形が船の碇(いかり)に似る。滋養強壯の生薬にも。



ブナ

開花 5月

樹皮が白っぽく地衣類や苔の仲間などがついて出来る斑紋が特徴。ブナの実はおもしろくクマをはじめ野生動物の貴重な食料。



オオカメノキ

開花 5~6月

卵円形の大きな葉を甲羅に見立てて大亀の木。葉がよく「虫食われ」るから別名「ムシカリ」。



カタクリ

開花 5~6月

スプリング・エフェメラル（春の妖精）と呼ばれる。片栗粉が取れ、球根は良質のデンプンを多く含む。



サワフタギ

開花 5~6月

沢を塞ぐように枝が張る。鮮やかな瑠璃色の実で、強靱な枝で牛の鼻輪を作ることから別名ルリミノウシコロシ。



シラネアオイ

開花 5~6月

優美な淡い青紫色の花を咲かせる。花弁のように見えるのはガク片。



チゴユリ

開花 5~6月

下向きに咲く小さなかわいらしい花を稚児（子ども）に例えた名前。



トチノキ

開花 5~6月

花はミツバチやハナバチ類の蜜源に。実は縄文時代から食料に。灰汁抜きには半月ほどかかる。



マユミ
開花 5~6月

秋にピンク色の果実がはじけ、鳥が好む赤い種子が覗いて可愛らしい。初夏に小さな淡緑色の花が咲く。

ヤブデマリ
開花 5~6月

白い装飾花は深く5裂して1個だけがとくに小さい。真赤な実は熟すと黒くなる。



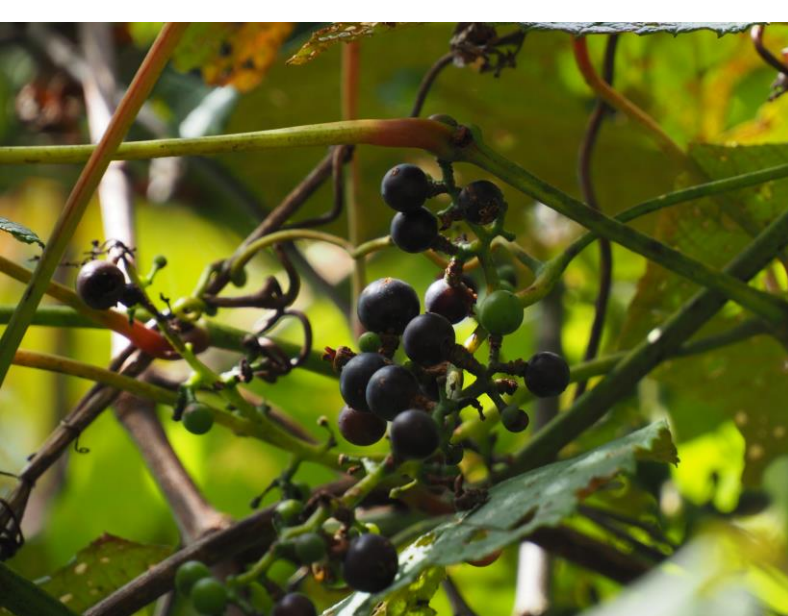
ウラジロヨウラク
開花 5~7月

葉の裏は白っぽく淡紅色の釣鐘状の花が仏像の天蓋などの飾りの瓔珞（ようらく）に似る。



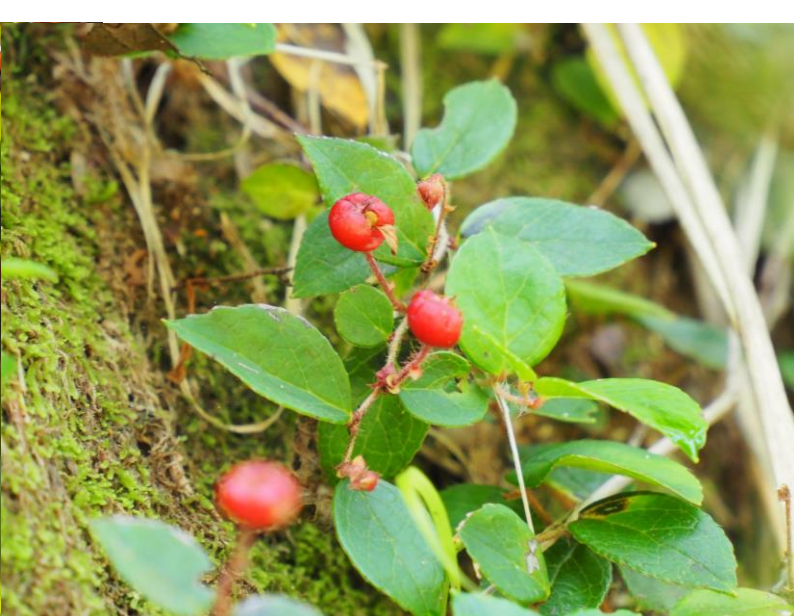
クマイチゴ
開花 5~7月

子熊が夢中で食べている間に母熊はそっと離れ子離れ親離れすることをマタギは「イチゴ落とし」と呼ぶ。



ヤマブドウ
開花 6月

野生するブドウの代表。葉身が長さ10~30cmの大きな5角状心円形。ワインやジュース、お菓子などに加工される。 - 17 -



アカモノ
開花 6~7月

赤桃、別名イワハゼ（岩黄櫨）。釣鐘型の白色の花。果実は球形で赤く熟し、酸味があって生食できる。



エビガライチゴ

海老殻苺。海老と言うより毛蟹のような見た目。味もおいしい。

開花 6~7月



コバノイチャクソウ

イチヤクソウより葉が小さく薬用に用いられる。葉が縦長の楕円形。

開花 6~7月



サルナシ

実が梨の形に似て、猿がよく食べるのでサルナシ。マタタビに似ているが、葉には細かい鋸歯があり、葉柄が赤い。

開花 6~7月



ナナカマド

燃えにくく七度カマドに入れても燃え残る。秋は燃えるような紅葉と鳥たちが好む赤い実が鈴生りに。

開花 6~7月



マタタビ

果実に亀甲状のシワがありアイヌ語でマタタンプ(冬の亀甲)が由来。花の時期には葉が白く化粧し、花に虫を集める。

開花 6~7月



アカバナ

秋に葉が赤く色づき食用となることから赤葉菜。山麓や野原の水湿地に生える。

開花 7~8月



オタカラコウ

開花 7~8月

雄宝香。花びらに見える舌状花は5~8個。葉の先は尖り、根茎には独特の匂いがある。



オトギリソウ

開花 7~8月

平安時代、鷹匠の晴頼が鷹を治療するための薬草を秘密にしておいたのに、弟がこれを漏らしてしまったので切り捨てたことから弟切草と言われる。



クサアジサイ

開花 7~8月

アジサイのような花が咲く草本。夏の薄暗い林下でつつましく可憐に咲く。



シモツケソウ

開花 7~8月

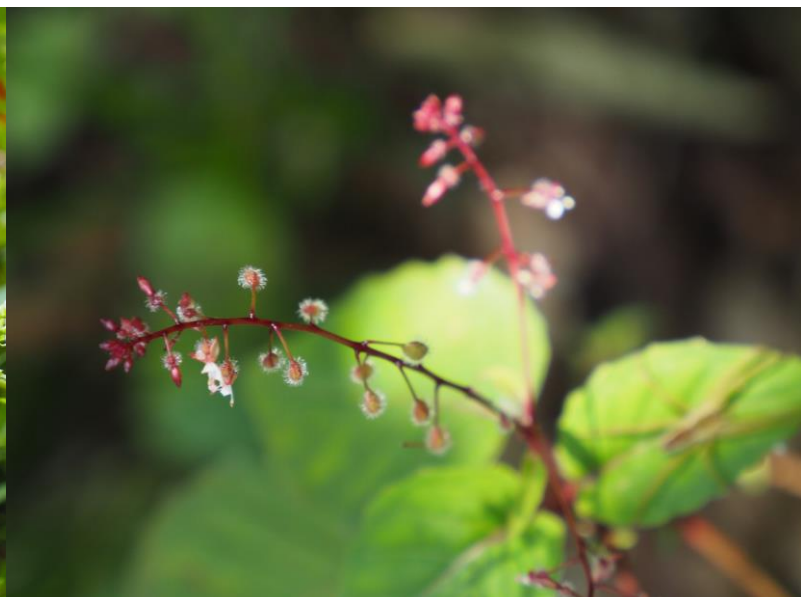
下野草。花言葉「おだやか」の通りやさしい気持ちになれる花。



ソバナ

開花 7~8月

ツリガネニンジンと似ているが、花が輪生せず一つずつ花がつく。山の阻（山腹の斜面）に生え食用となるので阻菜。



タニタデ

開花 7~8月

谷蓼。タデに似ているから。ミズタマソウと違い紅紫色。



ヌスビトハギ

開花 7~8月

淡紅色の小さな花。果実が泥棒のつま先立ちの足跡に似る、果実が人目を盗んで服に着くことが由来。



ヤマアジサイ

開花 7~8月

中心にある両性花が落ち、装飾花が反転し花の季節に終わりを告げる。



ヨツバヒヨドリ

開花 7~8月

ヒヨドリの鳴く秋ごろ咲くヒヨドリソウそっくりで葉が4枚。アサギマダラが好む吸蜜植物。



タマアジサイ

開花 7~9月

玉のような蕾をあげ、それが開くと両性花や装飾花が咲く。



リョウブ

開花 7~9月

ウメに似た小花の集合体。樹皮はツルツルで斑に剥げて美しい。若葉は茹でて干すと長期保存でき重要な救荒食だった。



オオシラヒゲソウ

開花 8~9月

花弁の縁が糸状に細裂し「白髭草」。シラヒゲソウより花が大きい。

2017/09/17



クルマバハグマ

開花 8~9月

車葉白熊。葉の形が矢車に似て綿毛がハグマに似る。花冠の先は5裂しカールし花火のように咲く。



ホツツジ

開花 8~9月

穂状の花を咲かせる。富山では標高1,500mぐらいでミヤマホツツジに入れ替わる。



ミヤマママコナ

開花 8~9月

深山継子菜。由来は、種をご飯に見立てた、または下唇に飯粒状の白い突起があるため。



モミジガサ

開花 8~9月

葉が開くとモミジ葉の形に似ている。若芽の頃が旬の山菜。独特の香り、ほろ苦み、シャキッとした歯触りが人気。



ツルリンドウ

開花 8~10月

つる性で花はリンドウに似ている。1.5cmほどの赤紫色の実の中に2mmほどの種が詰まっている。



オオアキギリ

開花 9~10月

鎌首を持ち上げたような上唇と花の外にピーンと突き出した雌しべが特徴的。



ツリフネソウ

開花 7~10月

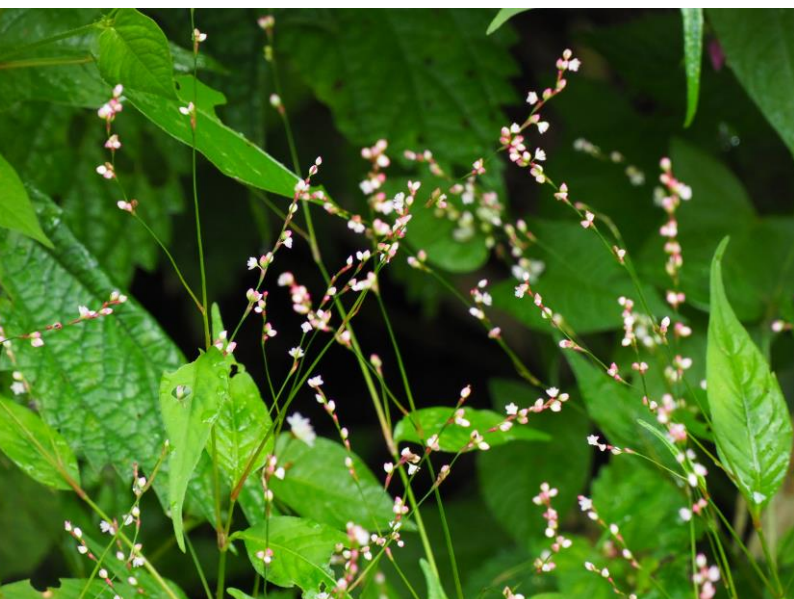
やや湿ったところに生え、紅紫色の花をつける。茹で立てのホタルイカのような。



オヤマボクチ

開花 9~11月

山菜のヤマゴボウ。葉の裏に生える繊維を、火おしの時に火口(ぼくち)として使っていた。



ミズヒキ

開花 8~10月

夕デ科。お花は紅白。祝儀などで使われる水引きそっくり。



キンミズヒキ

開花 8~10月

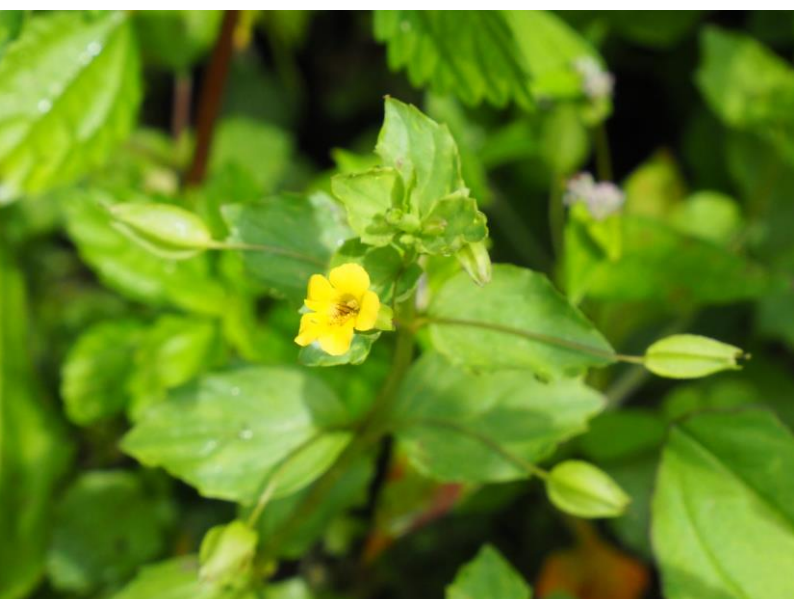
バラ科。越道峠の広場に群生する。果実は円錐形でカギのある刺が多数。



アキノキリンソウ

開花 7~10月

花の群れ咲く様子を酒造りの際に生じる泡に見立て、別名アワダチソウ(泡立草)。



ミゾホオズキ

開花 6~8月

花の終わった後の果実がホオズキに似ていて、湿った場所に生える。



アカソ

開花 7~9月

赤麻。カラムシやアカソは茎の繊維が丈夫で、縄文時代から衣服の材料として使われていた。



オニドコロ

開花 7~8月

ヤマノイモ科だが、根茎は苦味が強く食べられない。花は黄緑色で雌雄異株。果実は楕円形で翼は3個、各翼の中に種子が2個入る。



アオジクスノキ

開花 5~6月

節々で曲がる枝が特徴で花も枝も緑色。かくばった緑色の枝をさして青軸。赤い液果は真ん中が凹んでいる。



ツリバナ

開花 5~6月

小さな花が吊り下がるように咲く。熟すと実がくす玉のように割れ赤い種が出る。



オニシオガマ

開花 9~10月

鬼塩釜。シオガマギクの仲間で大型で毛が多いことが由来。夕日ヶ原から種が飛んできたと考えられる。 - 23 -



サラシナショウマ

開花 9~10月

根の升麻は生薬。サラシナは「葉を水に晒せば食べられる=晒し菜」という意味。



クロバナヒキオコシ

開花 9~10月

驚く苦味。弘法大師が見つけたそうで、起死回生の野草として「引き起こし・延命草」の名がついた。



リンドウ

開花 9~10月

根は漢方薬でまるで竜の肝の様に苦いことから「竜胆」と名付けられた。中国語読みでリュウタンが訛りリンドウに。



ジャコウソウ

開花 10~11月

茎や葉に麝香鹿の香りがすることから名が付けられた。



ダイヤモンドソウ

開花 10~11月

花の形が「大」の字に似た純白で清楚な花。花言葉は、自由、情熱、好意。



ヤマブキショウマ

開花 6~8月

若芽は山菜に。葉脈が平行。トリアシショウマは、葉脈の本数が少なく平行でない。 - 24 -



タマガワホトトギス

開花 7~9月

黄色をヤマブキに見立て、ヤマブキの名所の京都府出井の玉川の名を借りたもの。